

# インターネットを活用した授業の実践とホームページの作成 ～生徒に興味関心を持たせる授業の工夫～

萩市立大井中学校

## 1. 学校紹介

所在地 山口県萩市大井 1 1 2 6 番地 生徒数 87人  
教員数 10人 学級数 3クラス

## 2. 研究のねらい

生徒が興味関心を持って授業に取り組めるような、インターネットの活用方法を研究、実践する。

開かれた学校作りを目指し、保護者や地域との情報交換の場となるようなホームページの作成、更新を全教員でできるように研修を行う。

## 3. 研究の経緯

各教科、年間を通してインターネットを活用した授業に取り組む。  
教師全員がホームページの作成ならびに更新が行えるように校内研修に取り組む。

情報アドバイザーによるホームページ更新の研修 (7月31日)

ホームページ更新の校内研修 (12月9日)

## 4. 研究の内容

### 事例1 インターネットを活用した授業 「社会科公民的分野」での実践例

平成15年11月、世の中は3年4ヶ月ぶりの「衆議院総選挙」の話題で持ちきりとなった。3年生はすでに一学期に「政治」の学習を終え、二学期からは「経済」の学習に入っているのだが、リアルタイムで報道されている「衆議院総選挙」は、生徒がなかなか興味を示さない「政治」の学習を具体的に振り返るとともに、「政治」を自分達の身近な話題として考えさせる恰好の生きた教材といえ、この話題を授業に取り上げない手はないと考える。

そこで、まずは選挙を身近に感じさせるために、インターネットを活用し、政党の考え方や地元からの立候補者について調べさせ、自分の考えで模擬投票を行い、実際の選挙結果と比較してみるという授業を仕組んでみた。

### 授業の展開

学習内容および学習活動	教師の手だて
小選挙区山口3区に立候補している3人の公約や政策を調べ、自分も一票投じてみる。  比例代表名簿の顔ぶれや、それぞれの政党の公約や政策を調べ、自分も一票投じてみる。	・主にインターネットで調べさせるが、ポスターやチラシ、新聞記事等の資料も提示し、なるべく多くの資料から考えさせるようにする。  ・一人一人の能力にあった情報量の提示に留意する。  (1時)

<p>復習 1 内閣は衆議院を解散することができる</p> <p>復習 2 衆議院選挙は小選挙区・比例代表並立制で行われる</p> <p>復習 3 キーワードは「マニフェスト」</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小泉総理はなぜ衆議院を解散したのか、資料から考えさせる。</li> <li>・選挙のしくみや方法を復習し、それぞれの選挙方法の問題点を確認させる。</li> <li>・各政党や議員のポスターやチラシ、報道番組のビデオ、4コマまんがなどを利用して、「マニフェスト」「公職選挙法」などの言葉をおさえる。</li> </ul> <p>( 2 時 )</p>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>さて、選挙結果はどうなった？</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今回の選挙結果を見てみよう</li> <li>・前回の選挙結果と比べてみよう</li> <li>・今回の選挙はどこが勝ったのか</li> </ul> </div> <p>自分の考えと比べてみよう</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各政党の獲得議席数を見て、今回の選挙は、結局どこの政党が勝ったことになるのか考えさせ、意見を書かせる。</li> <li>・インターネットで各新聞の記事等を比較させ、選挙結果に対する解釈も様々であることに気づかせる。</li> <li>・本単元の中心的課題として、しっかりと資料を読みとらせたい。</li> <li>・前時に行った疑似投票の結果のまとめを示し、自分の考えと友達の考えや世の中全体の考えを比べてみる。</li> </ul> <p>( 3 時 )</p>

授業後の考察

この授業を通し、生徒は「選挙」はもちろん、政党の考え方の違いや候補者一人一人の公約を、自分達の生活と結びつけてとても身近に感じる事ができたようである。そのため、選挙結果にも強い興味関心を示した。また、しっかりとした意見を書く生徒が多いことに感心させられ、インターネットを活用したこの授業に成果があったことを実感することができた。以下、生徒の意見を一部紹介しておく。

「インターネットや新聞記事、ポスター等を参考に、あなたも衆議院総選挙に一票じてみましょう。」 ( 選んだ理由 )

《小選挙区》

- ・日本の自衛官が他国の領土にまで踏み込んで戦争に加担することは絶対反対だという考え方が、僕と一緒に考えだし、僕の親も自衛官だから、もし派遣されて銃撃戦に巻き込まれたら嫌だ。

・ホームページを見ると、県立高校へのストーブ導入、若者の雇用の場を増やす、といった活動をしていると書いてあった。イラクへの自衛隊派遣についても、「今、イラクに必要なのは軍隊ではなく、破壊されたライフラインや住宅を整備する専門家だ。自衛隊の力が欲しいのはアメリカ。」と、しっかりした考え方を示している。

#### 《比例代表》

・すべての政党の中で「マニフェスト」が一番具体的で、「国会議院の人件費削減」はもちろん、政治への安心感が持てると思ったから。積極性という意味ではどこにも負けていない。

・以前から、消費税の問題が気になっていたその問題を大きく考えてくれそうなので\*\*党にしました。

・「日本国憲法第9条は日本国民が世界に誇る宝だと確信」という言葉を聞いて。

「あなたは今回の選挙はどこが勝ったと思いますか。」(そう思った理由)

\*\*党が議席を大きくのばしたとはいえ、やはり\*\*党が過半数を超えている。\*以外の政党では今の日本を変えることはできないと思う。

解散時、勢力は137議席だったのに、今回の選挙では177議席まで上がったから。一番票が多かったのは\*\*党だけど、比例代表では\*\*党の方が票が多かった。

これまで\*\*党が過半数の議席を独占し、単独政治を行っていたけど、今回は\*\*党が2大政党政治へ向けて大躍進することができた。\*\*党へ\*\*党の脅威を示すことができたと思う。

前回の議席を大きく上回りこれからの政権へのおおきな躍進を遂げたと思う、単独政権への対抗馬としても大きくなった。

#### 事例2 各教科でのインターネットを活用した授業例

国語 「言葉について」 日本語について、英語との違いや特徴について自分でテーマを選び調べ学習を行った。

社会 「国会議事堂の中を探索してみよう」 - 国会のホームページにアクセスし、実際に国会議事堂の中を歩いたり、議長席から会場を見渡してみるといった疑似体験をする。

理科 「動物のくらしとなかま」 1つの動物について調べ学習を行った。  
「物質の変化とエネルギー」 発電所について火力発電所など1つ選んで構造やメリットデメリットについて調べた。  
「地球と宇宙」 宇宙について自分が興味を持ったことについて調べた。

家庭科 「消費者について」 危険なこと等について調べ学習を行った。その他「各地のお雑煮」「加工食品」についてインターネットを利用し調べた。

### 事例3 ホームページビルダーを使ったホームページの作成・更新の研修

はじめに、大まかな説明を受けた後、教員それぞれが実際に担当するページを変更しながら分からないことを質問するという形で、デジカメで撮った写真の画像処理の方法、ホームページへの写真を取り込む方法、ページの送信の方法など誰でもホームページが更新できるように基本的なことから研修を行った。

ホームページをそれぞれが定期的に更新できるようになったが、メインコンピュータにトラブルが起きたりウイルスに感染したりすることが多く、本校のホームページが外部から見られない期間が長かった。

## 5. 研究の評価・課題

限られた授業時間の中で、比較的短時間で大量の、しかも最新の情報を入手することができるインターネットは、他の方法に比べて大きなメリットがある。また、理科での「天体を観測してみよう」、社会科での「国会議事堂の中を探索してみよう」、技術科での「立体的な製図を描いてみよう」などの授業では、パソコンやインターネットを使うことで、実際には見たり体験したりできない事を疑似体験させることが可能となり、生徒に興味関心を持たせるよい機会となった。

反面、パソコンの使用頻度が高まるにつれ、パソコン台数の問題や、トラブルの発生の多さも強く感じるようになった。本年度はメインコンピュータがウイルスにやられ、すべてのパソコンに感染してしまうということもあった。トラブルに対応できる人材の育成や研修の充実、教室移動をしなくてもその場でパソコンが使える校内LANの整備などが大きな課題であろう。さらに、今後は教科の授業だけでなく、総合的な学習や選択教科はもちろん、道徳や学級指導にも有効に活用できるよう研究すること、操作技術について、技術科を中心に各教科、あるいは小学校とも連携をとっていくこと、パソコンの正しい使い方を指導することで情報モラルの意識を持たせることなども課題と考えられる。

## 6. 研究成果物の内容と普及方法

まだまだ恥ずかしい内容のものだが、大井中学校のホームページ（われわれの研修成果）をぜひ一度ご覧頂きたい。

## 7. まとめ

調べ学習等、授業の中でインターネットを活用すると、生徒がたくさん情報を収集することができた。今後はさらに収集した情報の中から必要のものを選び出す力などを生徒に身につけさせたい。

また、情報の発信という点では、現在は教員がホームページを更新しているが、これからは生徒の手でホームページを更新できるように学校の環境を整備することが課題である。しかし、メインのパソコンでのトラブルの発生など技術的な問題が残されている。

何はともあれ、三年間の取り組みを通し、教師も生徒もパソコンを活用する機会が大きく増えたことが一番の成果であったように思う。このような機会を与えて頂いたことに心より感謝をし、実践報告としたい。